

くるま旅



ワイド

- 金山城** 太田桐生インターから車で10分。問い合わせは太田市教育委員会文化財課(0276・20・7090)。
- 唐沢山城** 佐野田沼インターから車で10分。問い合わせは佐野市観光立市推進課(0283・27・3011)。
- 笠間城** 笠間西インターから車で20分。問い合わせは笠間市教育委員会生涯学習課(0296・77・1101)。

北関東道沿い 山城跡めぐり

見事な石垣、乱世の技の粋



近年になって整備・復元が進み、現在も大手道の発掘作業が続いている。最も印象的なのは実城(本丸)に向かう大手虎口だ。左右の石垣とともに、通路は遠近法を巧みに生かして実際の距離を遠く見せて敵をあざむく工夫がある。二つの巨大な池は「この城の水は豊富だ」とわざと見せつけて相手の敵意を失わせるねらいもあるという。

太田市教委文化財課の担当者によると、金山城は上杉謙信や武田勝頼でも落とせなかった堅城。秀吉もあえて力攻めをしなかった。ここには戦国時代の城の防



見て得 知っ得 きたかんとう

北関東自動車道沿いには立派な山城跡が点在する。群馬県太田市の金山城、栃木県佐野市の唐沢山城、茨城県笠間市の笠間城いずれも関東地方の城では珍しく、見事な石垣を有するのが特徴で、日本城郭協会の「日本100名城」「続日本100名城」に選ばれている。ハイキングコースにもなっており、今の時期は新緑も楽しめる。

●金山城

金山城は戦前の1934年には国史跡に指定されている関東の名城の一つだ。

室町時代に築城され、16世紀前半、下克上で城主になった横瀬氏(由良氏に改姓)によって全盛期を迎える。後に北条氏の謀略に落ちて支配下となったため、豊臣秀吉の北条攻めによって開城。その後、廃城になった。江戸時代は將軍家御用林となり、一般人の立ち入りは禁止だった。



復元された金山城の大手虎口。群馬県太田市

●唐沢山城

城主の歴史は戦国時代そのもののだ。代々佐野氏の居城だったが、上杉謙信の配下になったり、北条氏に奪取されたり、さらには豊臣秀吉方に奪還された。秀吉の死後、徳川家康の勢力拡大とともに廃城になり、江戸時代は上杉根藩の領地となった。

国史跡となったのは2014年。194年に及ぶ広大な面積が指定されている。最大の見ど



唐沢山城の高石垣。栃木県佐野市

笠間城の天守曲輪に残る石垣。上は佐志能神社。茨城県笠間市

ころは高さ8.5メートルに及ぶ本丸の高石垣だ。秀吉の重臣富田氏の子、佐野信吉が城主になった後、豊臣方の高度な石垣技術を導入して積んだものだ。400年以上前の見事な石垣が楽しめる。

今年11月には「全国山城サミットin佐野」が唐沢山城を舞台に開催される。山城がある市町村が情報交換などを通して、山城を生かしたまちづくりを考えるイベントで唐沢山城の知名度アップが期待される。

ハイキングが楽しめる人も多く、佐野観光ボランティアガイド協会の藤本武義副会長は「唐沢山城は城そのものの魅力もさることながら、春はワッジ、秋

●笠間城

笠間市内の佐白山に築かれた笠間城は江戸時代、笠間藩8万石の居城として栄えた。明治になって廃城となり、建築遺構は現地に何も残っていないが、櫓の一つが市内の寺院に、城門の礎が市内の民家に移され、現存している。「もとの場所に戻すことができませんか?」と難しいうので、「さすがにもう難しいのでは」と市教委生涯学習課の額賀大輔さん。

関ヶ原の戦い前には豊臣方の蒲生氏が入城、残されていた見事な石垣はその時に整備されたと言われている。特に天守曲輪の頂上にある佐志能神社下の巨大な石が目を引く。江戸時代の天守は二重のものであったと推測されており、佐志能神社は天守を解体した際の廃材が使用されたとされている。

東日本大震災で石垣が崩れやすくなっており、市では立ち入り禁止の場所を設けている。「難れた場所から見ることができません」と額賀さん。天守曲輪や本丸御殿などの調査はまだまだ手つかずのところもある。額賀さんは「いろいろな調査を重ねて、ゆくゆくは国史跡を目指したい」と夢を語る。(斎藤勝寿)

はモミジと四季折々の山歩きも楽しいですよ」と話す。

すんなり。

Walcab ウェルキャブシリーズ